

令和2年5月11日

第528号

横浜市立日吉台小学校

玉置 恭美

教育目標

みずから生きる

ともに生きる 日吉台の子

ひよびだい

臨時休校を乗り越えて 育て日吉台の子どもたち

校長 玉置 恭美



桜も花のころを過ぎ、青葉が美しい季節となりました。例年なら新しい学校、学級での生活に慣れ、新しい仲間と学校での活動に意欲的に取り組んでいる頃です。臨時休校となつてから、2カ月が経とうとしています。校舎も校庭も、700人を超える児童がいたとは思えない静けさです。「早くたくさん子どもたちが来ないかな」と、待っているようです。

「コロナ」という文字が新聞やテレビ、ラジオに出ない日がありません。目に見えない恐ろしさと戦い、外出を控えて三密を避けることしかできない日々。でも、持病がある人や高齢者の方々への感染を防ぎ、これ以上感染者が増えないように一人ひとりができる限りのことをしなくてはいけない時期でもあります。

気持ちを切り替えて、自分のためになることを自分で考え、前向きに取り組んで行くことが必要ですね。おうちでも、話題に出していたいただければと思います。

教室はがらーんとし、授業のない教室は時間が止まっているようです。そんな中でも、季節は確かに移り替わっています。児童のいない校庭に、花ボランティアさんが植え付けや草取り、水やりに来てくださり、ネモフィラが今を盛りと咲いています。6,7組前の畑には、菜の花の種がたくさんでき、来年



が楽しみです。4~6年生の畑は、先生たちが畝を作ったり、ジャガイモが元気に葉を伸ばしていたり。美しい花を咲かせていた校長室前の梅の木や、西門のアンズの木には、すでにたくさんの実がなっています。昨年度、児童の給食にゼリーとなって出てきた本校の夏みかん。今年もたくさん花が咲き、実がなるのが楽しみです。楓や、イチヨウの木には、小さな小さな若葉が出てきました。そのまま大きくなって秋には美しい紅葉となるでしょう。校庭の変化を探してみてください。



学校の授業も始められないまま、学校で出された課題を中心に、子どもたちは家庭での学習に計画的に取り組んできたと思います。学び合い、語り合うことで知識が深まる時間は本当に貴重です。集団の中で、子どもが学び、育つ学校生活のリズムが、早く戻ってくることを願っています。

*今後の授業計画等は、横浜市全体でペースを合わせ、無理のないように変更していきます。